

日本キリスト教団 清水ヶ丘教会

まじふ

Vol.11 No.1

2014.5.4

わたしたちには神の家を支配する偉大な祭司が
おられるのですから、心は清められて、良心のとがめ
はなくなり、体は清い水で洗われています。信頼し
きつて、真心から神に近づこうではありませんか。

（ブライ書一〇：二一―二二）

「はじめまして、よろしくおねがいします」

中島 聡 牧師

この春、清水ヶ丘教会の三代目主任牧師として赴任しました中島 聡です。生まれは大阪です。大阪駅から二駅の野田、大阪中央卸売市場の近くで生まれました。大阪城から離れています、防人的な城下町の一つで、戦中に空襲を免れた一帯なものですから、長屋や石畳み、古井戸が残ったまま、三叉路から五差路まで、敵が攻め込んできてもすぐに進めないよう非常に入り組んだ細い路地が多く、まるで迷路、子どもにとってみれば町そのものが遊び場のようで楽しいのですが、「こんなん火事になったら消防車も入れんような路地ばかりで大変やで」と大人は口にしていました。そんな長屋の間から父・故中島誠牧師が開拓伝道を始め、母・故恵美子伝道師と結婚、私は四人目の次男坊として誕生しました。端折りますが、今、清水ヶ丘から次々と献身者が進んでいる関西学院大学神学部を卒業し、広島

流川教会（流川幼稚園）二年、母教会の大阪西野田教会（関西学院高等部・近江兄弟社中等部聖書科）一〇年、福井県の如鷲教会（光の子幼稚園、若狭医療福祉専門学校）九年を経て、この春、桜満開の候、清水ヶ丘教会に遣わされてまいりました。

◆清水ヶ丘は信仰の丘◆ 赴任して、引越しの段ボール開き、次々と続く打合せに引継ぎ、牧師室に入っては「ああ、説教の準備、週報の準備、本棚の整理…」と気ばかりあせていた時、初代倉持芳雄牧師の『伝道五〇年記念誌』を見つけ手に取り、最初は「今、読んでいる場合とちやうのに」と思いながらも、頁をめくる手はとまらず、その内に不思議と心静かにせられ、そして清められていく気持ちになりました。「今、一人で焦っている私がいるこの清水ヶ丘全体が、神様の栄光と祝福に満ちており、私はただ頭を垂れて、先達のお一人おひとりの献身と伝道に感謝し、その跡に続いていかせてもらえればよいのだ」と示されたのです。私のためにこの記念誌を書架に置いていって下さった島田勝彦先生のお姿が胸に浮かび、また六六年間、この教会を支え守ってこられたお一人おひとりの信仰が「清い水」となって流れ込んでくるようでした。

記念誌に「ここは清水ヶ丘と言って、昔清水がどんどん湧いていて、そして、竹筒つぼでずつとそれを下に引いて、そして蒔田という田んぼだった…」とありますが、このような素晴らしい土地を、神様は倉持牧師に「彼、アブラハムは望むべくもあらぬ時になほ望みて信じたり」（文語訳ロマ書四：一八）の御言葉をお与えになり、そしてそれは確信の祈りとなり、まだ実現する前から感謝の祈りとなり、遂に勝利を得られたのです。

◆みことばは祝福の種によって◆ このように、

私たちはこの清水ヶ丘に来る、この丘に立つだけで、信仰の恵み、勝利の証に包まれるわけです。それは神様からの聖書の御言葉と、感謝の応答の祈りによります。聖書の御言葉は「祝福の種」です。道からそれれば論し戒め、信ずれば三〇倍、六〇倍、百倍の実を結ばしめ、私たちが祝福してくださいませ。

だからこそ、礼拝、祈祷会を第一として、御言葉をいただいたいて、一人ひとりの信仰生活を祝福していただき、教会、子どもの教会、幼稚園、すべての福音伝道を祝福していただくことに尽きるのです。そして、神様がおられるところは「祈りの家」（イザヤ五六：七）とあるとおり、感謝の祈りと、この身を献げていく時に、必ず信仰のビジョンは神様の時に適って実現していくのです。私自身は弱いのですが、「神の家を支配する偉大な祭司がおられるのですから、：信頼しきつて、真心から神に近づこうではありませんか！」です。

◆新たな福音伝道のビジョン◆ 温故知新、不易流行。私としては、まずはこの教会、この地の歴史と伝統に慣れ親しませていただき、変えてはならぬものをわきまえ知ることを大切にしつつ、「第一礼拝と第二礼拝を守りながら、牧師・園長として子どもの教会に出席するにはどうしたらよいか？」、「次世代への伝道のためゴスペルクワイヤを立ち上げたいが如何なるか？」と夢、希望を与えられています。どうか、兄弟姉妹お一人おひとりも、この信仰の丘において恵みと祝福を存分に受けつつ、御言葉と祈りをもって、新年度、継続と新たな福音伝道に燃やされますように祈り願います。共に主の御業に仕えて参りましょう！ハレルヤ！